

第2回柴又観光まちづくり検討会（書面会議）会議録

1 開催方法

書面による会議の開催

2 書面開催の経緯

第2回柴又観光まちづくり検討会を令和4年2月3日（木）に開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の状況に鑑み、書面での会議開催とした。意見確認に際しては、会議資料を持参し、説明の上、令和4年2月4日（金）に以下の事項について各委員の意見集約を行った。

3 意見確認者（委員13名）

宇野会長、天宮委員、石川委員、熊倉委員、齊藤（勝）委員、齊藤（國）委員、島村委員、下田委員、須山委員、瀬尾委員、徳増委員、早崎委員、吉本委員（五十音順）

4 議 題

- (1) 前回（第1回）の振り返り
- (2) 川甚跡地活用の全体コンセプト
- (3) 川甚跡地を活用していく上での機能

5 資料

【資料1】第2回柴又観光まちづくり検討会資料

【資料2】川甚の記録保存について

意見	
宇野 会長	これからの柴又観光の振興や経済活動の発展に寄与する視点としての「観光・経済活動」があって初めて地域活性化に繋がるという考え方が、川甚活用の視点において重要である。その上で、4つのコンセプトを実現するために必要な機能の優先順位をつけてはどうか。この考え方で優先順位をつけると、①「集客機能、産業観光機能、交流促進機能」「回遊促進機能」②「文化観光機能」「観光情報発信機能」③「地域コミュニティ機能」「駐車場機能」となる。少なくとも新館内のスペース割りは上記優先順位で行う方が良いと思う。また、①については地元神明会を始めとする商店街のご理解とご協力も重要になる。特に、集客機能と回遊促進機能を重視すべきと考える。
委員	川甚の跡地は、葛飾柴又の東の玄関口として重要な場所であり、人と人、地域と人、過去と現在・未来を繋ぎ、人が集い、賑わいを見せる「場」として、新館や外周りが整備活用されることを希望する。
委員	川甚跡地の取得にあたり、「川甚」という名前を残す事を前提にしているのか。川甚は本館建物が残ってこそその川甚で、新館だけの川甚は、川甚があったというだけの事で大して意味は無い。

委員	<p>柴又の出入口としてのおもてなしの場、また、柴又全体を回遊型のテーマパークとして捉え、ひと休みできる空間になると良いと考える。</p>
委員	<p>新館については、イベント等の催事ができるほか、川甚の歴史や伝統的な川魚料理の展示、川甚にも飾られていた葛飾ゆかりの美術家の作品の展示など、葛飾や柴又の文化・歴史を感じさせるような雰囲気に見合う空間の演出をお願いしたい。展示は、固定ではなく、フレキシブルな展示が可能となるように工夫してほしい。</p> <p>外周りについては、新館周りがかつて川甚の池のある見事な和風庭園があったので、和風庭園を基調とした公園整備が良い。生簀の石組もその方が馴染むと思う。公園整備にあたっては、柴又は葛飾区歌の歌詞にも「さくら花咲く 江戸川の」とあるように、都内有数の桜の名所だったので、桜が楽しめる公園に是非してほしい。なお、今回の整備の時に、土手沿いの道を大型バスが通行できるように改修することもお願いしたい。</p> <p>西側の駐車場だったところは、今後、駐車場だけの利用ではもったいない。イベント等の催事ができ、隣地沿いに桜を植樹するなど景観にも配慮し、東側の新館エリアとの一体性を持たせるようにしてほしい。なお、イベント等を催すには、上下水道や電気などのインフラの整備も必要となる。</p>
委員	<p>跡地周囲に桜を植え、トイレ・ベンチのある休憩所としたらどうか。防災拠点にもなる。昔、土手から水元まで桜並木があった。花見客が多く、川甚も利用したことと思う。新館1階を食堂、2階は川甚資料室とし、その他は用途に応じて色々なイベントに利用出来るのではないかな。柴又という事に縛られずに多目的ホールにしたらどうか。</p>
委員	<p>川魚料理専門店として、鰻だけでなく、鯰、鮎など、他の川魚専門に広げ、食堂の壁は柴又の歴史を展示する等、子どもの勉強を兼ねたらどうか。マスコミに取り上げてもらえば来訪にも繋がる。</p>
委員	<p>全体コンセプト：「映え」「人情味溢れる人と環境」「継続する賑わい」</p> <p>「映え」（柴又らしさ・帝釈天と現参道との一体感）…川甚新館を、日本庭園が敷かれた昭和の香りがする宿にし、日本人・外国人、老若男女から喜ばれる名所宿になれば素敵だと思う。若い世代や外国人は、近代化する世の中において、昭和や田舎を感じる憩い風情を好むように感じている。また、川甚跡地だけをクローズアップしても人気は長く続かない。しかし、帝釈天を中心に、境内を通して現参道と川甚跡地（新参道）を繋げることができれば、300mを超える一本の名所になる。境内の北側口と南側口まで石道を延ばし、境内には4ヶ国語程度の観光案内看板を立てて東西の参道を繋げ、帝釈天の外周も参道である意識を途切らせないよう石道を延ばせば帝釈天の内外で動線が広がる。そして、現参道を「西の参道」、新参道を「東の参道」など素敵な名前を付けると観光客の認知度も上がる。</p> <p>「人情味溢れる人と環境」（観光コミュニティの活性・信徒）…地元の盛り上がりがないと観光は成り立たず、子どもの頃から慣れ親しめる環境でなければ次の世代に繋がらない。駐車場跡地に路面店公園は必須と考える（巨大天空公園が難しければ、駐車場跡地は2階建にして、路面店公園と駐車場を分けて作れると良い）。また、参道としてコミュニティを活性させるため、路面店には下町ならではの人情厚い人がおり、公園では子どもからお年寄りまで集まれる憩いの場があり、モノ作りの町を象徴するオブジェがあ</p>

	<p>っても面白い。子ども（親子）や修学旅行生、お年寄り、外国人が集まる場所として、ワークショップ（例えば、煎餅焼き・飴切り・団子詰め・町工場の簡単にできる製造体験）も良いと思う。子どもが集まる場所は誰もが安心感を持てるので、観光客も参拝客も安心して来ることができる。</p> <p>「継続する賑わい」（「おもてなし」による「いらっしやい・また来てね・また来たよ・おかえり」）…川甚の名所宿や路面店公園が完成しても、人の繋がり（観光の連続性）が途切れては、観光客は一限様で終わってしまう。外国人の友人に「柴又の人は英語が話せない事を理由に何故か引っ込んでしまう。それが冷たく感じる。だから次回行きづらくなる。」と言われる。そうならないよう官民連携による観光ボランティアの育成が必要である。境内・参道・その他観光資源に「カタコトの英語」が話せる観光ボランティアがいると、外国人対応ができる上、観光案内看板以外には、帝釈天・参道を中心とした観光資源に外国語を掲げる必要がなく、柴又の日本的文化的景観を「映え」としてアピールできる。初めての方には「いらっしやい」「また来てね」ともてなし、「また来たよ」とリピートしてくれた時には「おかえり」と言える観光地が素敵だと思う。</p>
委員	川甚橋は掛けたい。
委員	<p>葛飾柴又のファンを大切にしながら、更に増やすことがリピーターへのキーとなる。</p> <p>①観光バス駐車場・トイレ等の整備、また、コロナ後には、はとバス等の誘致は絶対必要である。最近では自転車の方も多く見られる。</p> <p>②帝釈天を訪れる熱心な参拝客も多いが、柴又を訪れる方の大半は門前町の雰囲気好きな観光客であり、「日本一の下町風情」「下町情緒」を求めている。寅さんの故郷柴又に理想の故郷像を重ねているのではないかと思う。商店街の方々が「いらっしやいませ」「おかえりなさい」というお迎えの挨拶を付け加えるだけでその思いが伝わるのではないか。</p> <p>③20代30代の方など、『男はつらいよ』の映画を知る人は減っている。下町風情を求める観光客に対し、寅さんアピールだけでは将来はないかもしれない。</p> <p>④柴又帝釈天が観光の中心ではあるが、少し視野を広げれば、葛飾には『こち亀』『キャプテン翼』『紙兎ロペ』等の漫画・アニメがあり、下町の象徴のような立石というディープなまちがある。川甚や柴又の歴史等をメディアを通じて漫画放映などで紹介してもらえたら葛飾のアニメ情報発信地として有効活用できる。</p> <p>⑤リピーターを多く作るために飲食は欠かせない。門前の業種とバッティングしない立石B級グルメを誘致したらどうか（近隣が住宅地なので時間制限は必要）。</p> <p>⑥導線の整備は必要である。帝釈天から寅さん記念館に向かう観光客でさえ迷っている現実がある。帝釈天裏の空き地の有効活用も並行して検討が必要である。</p> <p>⑦下町情緒を活かした体験プログラムを開発し集客に繋げる（どの世代にアプローチするのかをターゲット設定し、子どもも若い親子世代も参加できるものにする。）。</p>
委員	観光地柴又として、現在不足している駐車場と飲食店の問題を基本に考えて計画を進めれば良い。昭和の時代を懐かしむ、川甚の歴史を後世に伝えるのも大切だが、今後、若い世代の人々にも柴又を訪れて頂けるような創意工夫も必要ではないか。

委員	<p>川甚跡地を活用していく上での機能について、意見というより希望をまとめた。観光客が観光地に求めるものは、「観るだけではつまらない」「美味しいものを食べたい」「何か特別な体験をしたい」「記念に残る写真を撮りたい」「せっかく来たからには多少お金がかかっても一日に色々なことをして有意義に過ごしたい」である。柴又の街を見ると、銀山温泉のような夜の照明の美しさがあり、風情溢れる、映える、夜の静かな参道を一晩中満喫出来たら最高である。山本亭のライトアップも一般公開してほしい。また、柴又帝釈天で禅や写経、修行体験など出来たら面白い。一日で遊び尽くせなければまた来たいと思っていただけ、リピートしたい観光地となる。</p> <p>川甚の外回りには立体駐車場・コインロッカー・トイレ・イベント会場が必要である。レンタサイクルがあれば、土手やしばられ地蔵・水元公園など少し離れた場所にも行ける。川甚新館は、車で訪れる者にとってはスタート地点となり、電車で訪れる者にとっては休憩所となる。1日では遊び尽くせない柴又の魅力を発信し、街に押し出すポンプ的役割を果たす。葛飾区の物が集まり、観るだけでなく体験して楽しい場所とする。</p> <p>(1階)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光案内所を設置し、魅力的な写真を活用した葛飾マップの展示や大スクリーンで葛飾区の魅力を集めた動画を流す。また、無料Wi-Fiを設置し、携帯充電を備える。矢切の渡し無料チケットや山本亭割引券、区内銭湯の入浴券等を配布するほか、柴又七福神の七寺の御朱印帳を配布するなど、柴又だけでなく、足を延ばすとまだまだある葛飾の魅力を紹介する。スタンプラリー的な楽しみもあると良い。 ・開放感溢れる空間とし、足湯や床几台、野点傘、添水など和の雰囲気演出する。 ・SNSで話題になるような撮影スポットを作る。 ・葛飾区の誇るべき伝統産業を展示・販売する。職人さんの作っている様子などを展示し、その価値を高める。葛飾区内の方でも伝統産業の魅力を知らない方が多い。 ・お茶屋スペース及び物産展等のイベントスペースを備える。 <p>(2階)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・葛飾区伝統産業職人会に講座をお願いし、伝統産業の体験ができる場とする。地元の方にも、国内外の観光客にも訴求できる。また、着物体験や寅さん、両さん等のコスプレ体験ができ、街を散策できると良い。写真スタジオがあれば撮影もできる。 ・柴又の歴史・文化を紹介する。 <p>(3階)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・竹とんぼや凧など日本の伝統工芸、おもちゃ作りの体験ができると良い。そのまま土手で遊ぶこともできる。そうしたことに使えるホール、会議室などを備える。
委員	<p>柴又の下町感ある温かい雰囲気作りは、建物やコンテンツだけではなく、接客する「人」の演出が必要である。「交流促進機能」として、そこで接客する人の雰囲気が柴又感の演出に繋がると思う。京都錦市場商店街は、専門店の販売員とゆっくり話しながら品物が購入できる雰囲気があり、賑やかで人の温かみを感じられる。おもてなしの場として、「その街の生活に一瞬入り込んだような錯覚」がキーになる。</p>

委員	<p>集客機能／産業観光機能／交流促進機能：飲食については、商店街の飲食店との競合にならないよう工夫が必要である。試食レベルで試すことができ、気に入れば商店街で購入（飲食）するような購買の流れを作る機能があると良い。川甚跡地そのものが名所ではなく、ハブの役割を担う場所とする。例えば、新潟の「利き酒番所」は県内の地酒を試飲できる楽しい名所になっている。</p> <p>回遊促進機能：柴又を訪れた際に印象的だったのは車椅子の方が多くいらしていたことである。街の雰囲気大切にしながらバリアフリーに力を入れ、誰でもやさしく迎え入れてくれる考え方が素敵だと思う。川甚跡地によって、回遊性の向上とともに、バリアフリーの観点からの回遊促進機能を高めてほしい。</p> <p>文化観光機能：歴史を知るのに、「本物を体感する」ことが現代人の刺激であり、「エモさ」を感じる魅力となる。資料展示だけでなく、柴又の人々の暮らしや生業（例えば、生簀から取り出した鯉を捌く等）を体感できるアトラクション的な機能があると柴又の歴史や文化への理解が深まり、「歴史を紡ぐ」機能になる。</p> <p>内装イメージ：神田明神文化会館「EDOCCO」や小田原観光交流センターのように、木目調の歴史を感じさせるテイストの内装だと帝釈天や商店街の雰囲気に溶け込み、説得力ある場になる。</p>
----	--